

ネパール交換派遣研修制度 ネパール研修生来日について

11月30日（土）～12月7日（土）の期間、ネパールから医師と大学生の研修生が来日しました。研修の様子をお知らせします。

11月30日（土）

早朝に関西国際空港に到着し、そのまま神戸へ向かいました。飛行機では少ししか寝られなかったようでしたが、ハーバーランドでのウェルカムパーティ、神戸港の散策、湊川神社参拝と、さっそく港町神戸と日本文化にどっぷりと染まった1日となりました。特に、海のないネパールから来た研修生にとっては、神戸港に魅了されたとのこと。また、日本のおみくじについては、その年の運勢を占うというところがとても興味深いようでした。



12月1日（日）

朝、冬晴れ空を背に神戸出発し、海を目指して一路西へ。日本が誇る世界最大級のつり橋「明石海峡大橋」を渡り、向かう先は淡路島。皆、童心に帰って海を楽しんだ後は、「淡路ジェノバライン」をグングン飛ばして、魚の棚で名物「明石焼き」へとたどり着きました。食べ歩きで小腹を満たし、最終目的地は神戸須磨シーワールド。初めて見るイルカのショーや不思議な海の世界を堪能し、外へ出れば夕日に映える明石海峡大橋に癒され、日が暮れるとイルミネーションをバックにフォトセッション。すっかり打ち解けた1日となりました。お食事時には、研修生と本学学生、教職員、さらにはお店の方々まで巻き込んだ侃々諤々の議論の末、日本における文化的・宗教的習慣への配慮の難しさや工夫を、私たちも一緒に学んだ実り多き貴重な1日となりました。



12月2日(月)

ホテルをチェックアウトし、本日からいよいよ本学、関連施設、病院等での研修が始まりました。理事長、学長へ挨拶、オリエンテーションを実施した後、学内の見学を行いました。医療検査学科の生化学の授業では、教員が電子書籍を使用して教えていることに驚いていました。また、音楽の授業では和太鼓が並べられており、休み時間に和太鼓をたたかせてもらい、ネパールにはこのような大きな太鼓はないと感激していました。また、毎週月曜日にラーニングコモンズで実施している English Room にも参加。本学学生にとっても楽しくまた英語力を高められる時間となりました。その後ホストファミリーと対面し、それぞれのお宅へと向かいました。



12月3日(火)

午前中は系列の神戸常盤女子高校を訪問しました。英語の授業、交流会、書道と盛りだくさんの内容で、女子高校生と楽しいひとときを過ごしました。交流会では「だるまさんがころんだ」で盛り上がり、書道のお土産をたくさん持って大学に戻ってきました。午後からは、大学の健康スポーツ科学Ⅲの授業に参加しました。本日の授業はテニスでした。学生達も英語でテニスの授業を受け、研修生だけでなく本学学生もたくさんの刺激を受けました。



12月4日(水)

本日は研修生の専門分野に近いプログラムの内容の研修をそれぞれが行いました。

研修生1名は朝から包括連携協定を結んでいる神戸国際コミュニティセンター(KICC)を見学し、海外からの留学生等の支援事業について学びました。また本学が運営している子育て総合支援施設のKIT(ときわんクニヅカ)、ときわんノエスタを見学し、利用者との交流を行いました。さらにノエビアスタジアムを見学した後、大学に戻り、本学の歯科診療所(はあみる)を見学しました。特にときわんノエスタでは、実際に赤ちゃんと一緒に遊び、楽しいひとときも過ごしました。日本では2,3歳の子供達でさえとも教育されているという感想が印象的でした。



医師の研修生は、超音波検査の実技演習を行いました。救急部に勤務する彼女にとって、リアルタイムに病態を観察できる超音波検査の技術を身につけることは、救える患者さんの数に直結するほど大きな意義があります。しかし、彼女が勤務する病院では超音波診断装置は1台しかなく、それを扱える人材も1名しかおらず、現場の医師でも技術の習得が難しい環境にあることが窺えます。本学の実習室には近隣の医療機関から譲り受けるなどして、スペックの高い医療機器が多く揃っており、学生の時から現場に近い実技演習が出来る環境の有難さを、改めて実感しました。

午後からは診療放射線学科にて研修を行いました。診療放射線学科についての説明の後は、日本における診療放射線技師になるための教育と働き方について知ってもらい、プラクティカルエリアでの放射線機器学実習の見学も行いました。

ネパールでは医師が取扱いしている部分も日本では技師が行っていることが分かりました。

その後は、ホストファミリーと買い物を楽しみ、それぞれのホームステイ先へと帰っていき、楽しい夜を過ごしたようです。



12月5日(木)

午前中は長田区にある神戸朝日病院を訪問しました。理事長先生より1時間みっちりエコー、MRIの実際の見学や症例、日本の医療保険、高額療養費制度についてもご講義いただきました。また、理事長先生よりネパールの医療事情についても学ぶことができよかったですご感想をいただきました。

午後からは、ときわ病院を訪問しました。医師の研修生が興味を持っている放射線科と、超音波検査を含む生理機能検査部門では、高額医療機器や画像診断システムなどについて丁寧に説明をして頂き、祖国ネパールとの違いに驚いていました。また訪問予定外だった検体検査部門も案内して下さり、慢性期病院での検査項目や外注検査のほか、日本の医療法における病床区分などについても学びを深めました。



12月6日(金)

午前中は本日夕刻の Farewell Party で行う研修報告のプレゼンテーションの仕上げを行いました。午後からは、兵庫県災害医療センターで見学研修を行いました。診療放射線学科の1年生の授業科目「臨床技術入門」での訪問で、Bクラスの学生と一緒に訪問し、ER、ドクターカー、情報指令センター、ヘリポートの4か所を見学しました。兵庫県ならではの先進的なシステムのお話を伺い、また、立ち入りが制限されているヘリポートも見学させていただきました。大学に戻ってからは、交換研修の恒例である Farewell Party です。ホームステイ先の学生や交流のあった学生、学長、同窓会長、国際交流センター員が参加をし、修了証の授与、成果報告、歓談と日本での最後の夜を楽しみました。



12月7日(土)

1週間の研修もあっという間に過ぎ研修最終日を迎え、本日は夕方のフライトまで、研修中に一緒に過ごした学生と共に大阪にて文化研修を行いました。

午前中は「水の都」大阪の川を周遊する水上バスに乗り、大阪都市部の水辺風景を楽しみました。昼は大阪名物の串カツを皆でいただき、通天閣周辺の新世界の街を歩いた後、空港に向かいました。

最終日も時間が経つのがとても早く、1週間の日本での生活において研修生と学生たちには深い友情が築かれており、最後の空港では涙のお別れとなりました。

研修生も学生たちも共に過ごした素晴らしい思い出や経験を大切にして、更なる活躍及び充実した学生生活を送られることを祈っています。

